

あどけない話

高村

光太郎

智恵子^{ち え こ}は東京^{とう きょう}に空^{そら}が無^ないといふ^う、
ほんとの空^{そら}が見^みたいといふ^う。
私^{わたし}は驚^{おどろ}いて空^{そら}を見^みる。
桜^{さくら}若^{わか}葉^ばの間^{あいだ}に在^あるのは、
切^きつても切^きれない
むかしなじみのきれいな空^{そら}だ。
どんよりけむる地平^{ちへい}のぼかしは
うすもも色^{いろ}の朝^{あさ}のしめりだ。
智恵子^{ち え こ}は遠^{とお}くを見^みながらいふ^う。
あだたらやまの山^{やま}の上^{うへ}に
毎日^{まいにち}出てゐる青^{あお}い空^{そら}が
智恵子^{ち え こ}のほんとの空^{そら}だといふ^う。
あどけない空^{そら}の話^{はなし}である。

●書ける字はなぞりましょう。声に出して読みましょう。